

日本

貿易統計 (2020年5月)

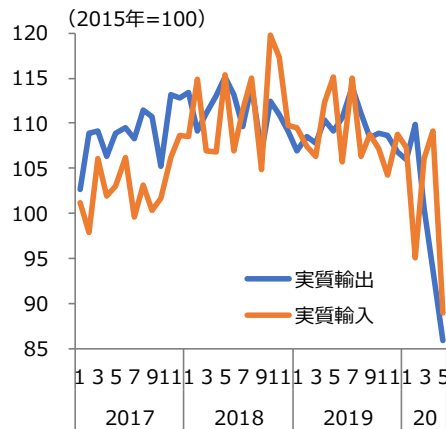
自動車輸出が大幅減、輸出の回復には時間を要する

政策・経済研究センター

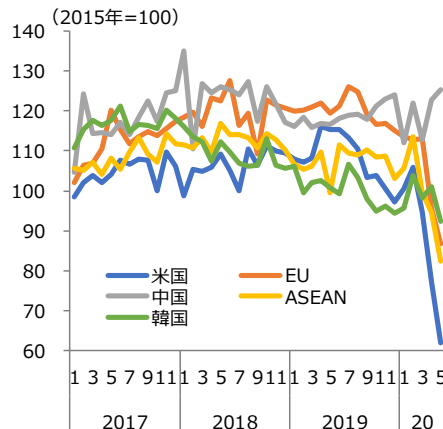
綿谷謙吾

03-6858-2717

1 実質輸出入

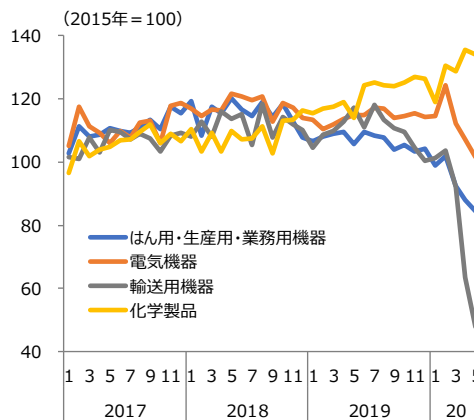


2 実質輸出：国別



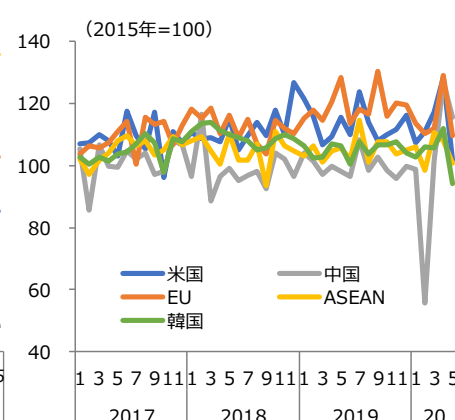
注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 実質輸入：国別



評価ポイント

今回の結果

- 20年5月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比▲8.3%、実質輸入は、同▲18.5%（図1）。貿易収支（季節調整値）は、▲6,010億円。輸出は新型コロナウイルスの感染拡大による海外需要の縮小から、3カ月連続の大幅な減少となった。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、経済活動の再開の動きが早い中国向け（前月比+1.9%）は増加も、その他の国・地域は減少。特に米国向け輸出が同▲20.0%と3カ月連続で大きく落ち込んだ（図2）。減少幅は世界金融危機時以来となる。米国向け輸出の中心である、輸送用機器（同▲35.8%）やはん用・生産用・業務用機器（同▲18.0%）が大きく減少した。ASEAN（同▲12.9%）、EU（同▲9.2%）、韓国（同▲8.5%）も大きく減少しており、各国で経済活動再開も、海外需要は回復していない。
- 品目別では、輸送用機器が前月比▲24.6%と3カ月連続で大幅に減少（図3）。輸送用機器の落ち込みが目立つ。主要な輸出先である米国を中心とした海外需要の減少に加え、サプライチェーンの途絶や工場の生産停止等が影響した。
- 実質輸入（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、中間財を輸入している中国（前月比▲9.3%）、ASEAN（▲6.6%）からの輸入が減少。日本国内の需要縮小に加え、生産活動の停滞が背景にある（図4）。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、新型コロナウイルスの感染拡大による海外需要の縮小から、減少傾向にある。
- 先行きは、低水準での推移を予想する。新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の抑制により、海外需要の縮小は避けられない。各国が経済活動を再開させているが、新型コロナウイルス感染拡大前の水準への回復には時間を要する。また、国内では緊急事態宣言解除も、生産活動は停滞しており、供給面でも輸出の回復には時間が必要だ。
- さらなる下振れリスク要因は、国内外での経済活動抑制の長期化だ。感染は南半球を中心に拡大しており、今後経済活動を再開した国で感染の第二波、第三波が発生した場合、経済活動が再度抑制される可能性がある。こうしたリスクが顕在化した場合、海外経済の減少、サプライチェーンの寸断により、輸出の停滞はさらに長期化するだろう。